

平成28年度外部評価委員会 開催概要

- (1) 日時 平成28年9月27日(火) 13:30～16:30
- (2) 場所 フォルテワジマ4階 小ホール
- (3) 外部評価委員 (◎は委員長、○は副委員長)
 - ◎請川 孝治 (国立研究開発法人産業技術総合研究所 特別顧問)
 - 河田 照雄 (国立大学法人京都大学大学院農学研究科 教授)
 - 貴田 晶子 (国立大学法人愛媛大学農学部 非常勤講師)
 - 山田 正彦 (株式会社カネカメディカルデバイス開発研究所 高度専門研究者)
 - 吉田 健一 (株式会社日本政策金融公庫和歌山支店 中小企業事業統轄)(欠席)
 - 五十部 誠一郎 (学校法人日本大学生産工学部マネジメント工学科 教授)

(4) 開催趣旨

平成24年7月から開始した地域イノベーション戦略支援プログラム事業は、平成28年度をもって国庫補助金の交付が終了となる。次年度以降は、地域資金を活用した地域イノベーション戦略の達成が期待されている。国庫補助金交付の最終年度となる今年度の外部評価委員会は、文部科学省の終了評価(9月に自己評価報告書提出、12月に現地(和歌山県)ヒアリング実施、2月に評価結果公表)が予定されていることから、事業概要や目標達成状況、各実施メニューの取組内容、今後の展望などについて意見(コメント)をいただくこととした。

(5) 評価対象項目

- 1) 事業全体概要及び活動状況報告
- 2) 地域イノベーション戦略の中核を担う研究者の集積
- 3) 地域イノベーション戦略実現のための人材育成プログラムの開発及び実施
- 4) 大学等の知のネットワークの構築

(6) 開催結果のまとめ

各委員からのコメントを以下に集約した。

1) 事業全体に関すること

全体的に事業内容が明確になり、実用化事例も確認されてきたので、今後も引き続き成果を導いていただきたい。特に、過熱水蒸気加工技術を和歌山県が他地域と戦える技術として発展させていただきたい。

健康寿命延伸に向けた取組に関しては、「要素課題を発展させ、それらを活かす仕組みを構築した」とあるが、今後はさらなる具体的な成果事例を導いていただきたい。

国庫補助金の交付終了後に可能な限り NPO 法人で活動を継続することは良い考え方があるので、より具体的に発展させていただきたい。

2) 研究課題・成果に関すること

梅ポリフェノールの効能研究に関する招聘研究者の活動については、概ね良好な結果が得られている。今後も臨床試験への誘導を進めていただきたい。

過熱水蒸気加工技術の果実への応用化に関しては、地域の技術として発展させ、やがては和歌山県の農業産業に変革をもたらす技術として、その実用化を期待する。

八升豆の活用については、興味のある課題であり、地域活性化のネタになる。県内関係機関と連携し、地域産業振興の素材として発展していくことを望む。

3) 人材育成プログラムの開発と実行に関すること

人材育成プログラムの対象者はシニア層となっているが、今後は若年層や大学生なども含めるような活動を検討していただきたい。

フレイルチェックの導入は良い着眼点であるので、さらに幅広い人材育成と健康寿命延伸につなげていただきたい。

(7) プロジェクトの対応

プロジェクトとしては残りの期間や国庫補助金の交付終了後を含め、継続できることに関しては NPO 法人と連携し、県や財団の支援を得ながら確実な成果を導いていきたいと考えている。